

世界一周旅行者の帰国後のライフスタイル

中尾 来夢, 倉田 陽平

首都大学東京

blueflower_lime@msn.com

概要: 世界旅行に関する口コミの充実、世界一周航空券の多様化、LCCの進出などにより、以前より世界旅行に出やすい環境が整ってきている。だが同時に近年、日本国内は就職難の時代を迎えている。本研究では不安定な雇用社会である日本を一時離れた世界一周旅行者が、帰国後、通常の日本社会に戻るのが困難であるという仮説のもと、世界一周旅行者のブログ調査・インタビュー調査により世界一周からその後の就業の状況までを分析した。そして、長期旅行の需要を喚起することを視野に入れながら、長期旅行後の雇用問題を乗り切るための手段・予防策について考察した。

Keywords: 長期旅行, 世界一周, 旅人, ブログ, 就職難, 雇用問題

1. はじめに

インターネットの発達によって、旅行に関する情報を気軽に手に入れ、発信し、さらには居ながらにして簡単に世界中の旅行手配ができる時代となった。また、近年、世界的にLCCが発達したことにより、海外旅行は安価でより身近で手軽なものになってきている。しかし、このような状況にも関わらず、若者の旅行離れが指摘されている[1]。

若者の旅行離れ、とくに長期旅行離れの要因の一つには、雇用問題があると考えられる。日本は就職難の時代であり、新卒の内定率低下や7・5・3問題、派遣切り、ニートなど雇用問題は後を絶たず、効果的な解決方法も見いだすこともできない中、重い空気が立ち込めている。このような状況において、長期旅行のために一度手に入れた職を手放し、再び雇用問題の真ただ中に飛び込むことは、若者にとって心理的に抵抗のあることは容易に想像できる。

そこで本研究では、長期旅行が本当にその後の人生における就業状況に負の影響を与えるのか、という疑問について、ブログ調査やインタビュー調査によって分析する。もし実際に長期旅行者の再就職が困難であるのならば、数多くの事例から問題点と打開策を探り、発信することで、長期旅行者予備軍の不安を取り除くことができるかもしれない。また逆に、もし再就職がさほど困難でないことが判明した場合は、その事実を発信することにより、不安を払拭し、長期旅行の需要を喚起することができよう。

さらに本研究では分析結果をもとに、長期旅行後の雇用問題を乗り切るための手段・予防策について考察していく。

2. 若者の旅行離れと日本の雇用問題

平成21年度観光白書[1]によると過去一年間国内旅行を全く行わなかった若者の割合は、ここ五年間で20~24歳で33.5%から41.3%に、25~29歳では20%から34.1%へと増加しており、若年層の旅行離れが示唆されている。この理由として金銭的問題、休暇の減少、就職活動、インターネットの普及が挙げられている。

一方、厚生労働省及び文部科学省による平成23年3月大学等卒業予定者の就職内定状況等の共同調査[2]において、大学の就職内定率は68.8%であり、就職内定率は平成8年度の調査開始以来過去最低の水準となっている。

また被雇用者の満足度の格差[3]から見られるように、非正規被雇用者の満足度は低く低迷しており、バブル時代に評価されていたフリーな生き方より、正社員のような生き方の評価が高くなってきている。だが近年、非正規雇用の割合は増加しており、特に若年層の割合が高くなってきている。非正規雇用のみで生活している労働者は実質的な失業者であり、ワーキングプアに対し新たな救済措置を講じるべきである[4]とする指摘もある。

また、学校から仕事への移行過程がニートやフリーターの出現に伴い変容するにしたがって、不安定で流動的な状態にある若者たちが急速に増加

している[5]。このような状況は、過去 20 年あまりの間に、日本のみならず先進諸国に共通の現象として発生しており、若者たちをめぐる状況は看過できない事態となっている。

3. 研究手法

本研究では長期旅行者の代表例として、世界一周旅行者に焦点をあてる。世界一周旅行は決して稀有な存在ではない。たとえば世界一周について書かれた日本語ブログ数は 1000 を超えている。また、関連書籍も通販サイトで 200~300 と数多く出版されている。2010 年ピースボートの調査によると世界一周クルーズには年間 3000 人を超える人が参加し[6]、世界一周旅行を専門に扱う専門旅行会社である世界一周堂は年間 3500 人以上をサポートしていると掲載している[7]。しかし、個別の世界一周旅行者の旅行記を目にすることはあっても、全体として世界一周旅行者がどのような人々から構成され、どのような行動パターンをとっているかについては不明な点が多い。

そこで、本研究ではこのような世界一周旅行者に焦点を絞り、ブログ調査とインタビュー調査の両面から彼らの実態を把握し、さらには彼らの帰国後の就業状況について調査を行う。

(1) ブログによる情報調査・分析

日本ブログ村世界一周ブログ (2011 年 12 月 2 日現在、世界一周に関するブログが 1284 件登録されている最大規模のブログ群) をはじめ、世界一周旅行者によるブログを閲覧し、筆者の属性や旅行前から帰国後までの動向をデータ化した。具体的には、性別、年齢、前職、現職、旅行日程、費用、滞在国、ルート、帰国後の無職期間、世界一周航空券使用の有無、悩み、目的、自主ルールの各項目を抽出した。そして結果を比較分析した。

(2) インタビュー調査

ブログでは筆者の選り好みした情報のみが発信されている恐れがある。特に雇用の状況はデリケートな問題であり、記載されていないことが多い。また、旅行ブログは旅行という非日常を発信するためのものや、安否確認のために作られたものが多く、帰国後の就業までの軌跡を記述してあるものは少ない。そこで直接、世界一周旅行者にインタビューすることでブログ調査を補足し、より詳細に世界一周旅行からの帰国者の現状を把握する。

4. 調査結果

(1) ブログ調査

現在までのブログ調査の結果 (n=21) を表 1 に要約する。この結果から読み取れることは以下の通りである。

まず旅行者像について述べると、現時点での平均年齢は 31 歳であり、出発時は 20 代後半だった者が主である。男女は半々であり、出発前後の職業はともに様々である。

旅行期間については一年前後が多い。世界一周航空券が一年の使用期限だからということもあるが、一年という単位は区切りが良いものであり、はじめをつけるために期間を一年と定めている人もいる。だが一方で旅行期間 6 年間という超長期旅行者もおり、帰国日を決めずに文字通り放浪しているという例もある。

世界一周旅行の開始時期は、春 (2~5 月) に日本を出発する者が 7 割弱 (21 人中 14 人) を占めていた。日本の就業サイクルが通常、4 月開始という形態をとるため、区切りがよいのだろう。実際に世界一周の理由を見ると「今しか行けない」「タイミングが良かった」「このまま同じ (仕事) ことを続けていくのが疑問だった」などと仕事の切れ目に言及する者が多く見られた。

世界一周航空券には、ワンワールドエクスプローラー、スターアライアンス、ラウンドザワールドの他、様々なものが発売されているが、今回の調査で最も多く使用されていたものはワンワールドエクスプローラーであった。21 名中世界一周航空券を使用したことを記載している者は 6 名であり、うち 5 名がワンワールドエクスプローラーを使用していた。これらの使用者全員がイースター島をルートに組んでおり、イースター島に就航しているランチャ航空が利用可能航空会社に含まれているのが人気の理由だろう。

費用は年間 100 万円台~300 万円代と幅広く、バックパッカーであってもそのスタイルは多様である。

ルートについては西回りアジア入りが多い (21 名中 13 名)。先に述べたように、春に旅を始める人が多いのが、旅行しやすい季節を考え夏を追いかける旅をすると必然的に西回りになる。またアジアは物価が安く旅の初心者にも旅行しやすい場所であることから、世界一周の最初に訪れやすいようだ。

最後に、世界一周にあたっての独自ルールについては、決めている人が多いわけではないものの、「某有名チェーン店に必ず訪れる」「某有名炭酸飲料の値段を調べる」など、世界一周しているからこそ手軽に楽しめる文化比較をしながら旅行しているケースがみられた。

表 1：世界一周旅行者の現状

前職	現職	性別	年齢	放浪日程	放浪期間	世界一周航空券	費用	滞在国数
1 歌舞伎町キャバ嬢	無職(執筆中)	女性	28	2009. 7. 6~2011. 7	2年間	なし	不明	47
2 総合電機メーカー	不明	男性	34	2007. 2~2010. 5	3年3か月	なし	300万円	70
3 土木系建築業	鉄系建築業	男性	32	2009. 6~2010. 7	1年1か月	不明	不明	34
4 営業職	営業職	男性	25	2009. 2~2010. 7	1年5か月	不明	不明	36
5 不明	不明	女性	35	2008. 3~2010. 8	1年8か月	不明	不明	55
6 不明	実家の飲食店	女性	26	2009. 4~2011. 6	2年2か月	不明	330万円	67
7 営業職	NPO	男性	27	2009. 4~2010. 6	1年2か月	なし	255万円	44
8 薬剤師(正社員)	薬剤師(パート)	女性	27	2009. 4~2009. 11	5か月	ワンワールド	200万円	26
9 大学生	大学生	女性	23	2009. 4~2010. 3	11か月	不明	不明	35
10 営業職	飲食店開業	男性	30	2007. 9~2010. 4	2年7か月	不明	不明	39
11 ウェブデザイナー	ウェブデザイナー	男性	38	2002. 4~2003. 4	1年間	ワンワールドビジネス	320万円	24
12 学生	学生	女性	24	2008. 10~2008. 12	2か月	ワンワールド	0(90万円)	14
13 OL	ウェブ制作	女性	28	2006. 7~2008. 7	2年間	不明	330万円	32
14 プログラマー	会社経営	男性	40	2002. 11~2008. 11	6年間	なし	450万円	45
15 学生	学生→教員	男性	32	2002. 2~2003. 4	1年2か月	なし	140万円	38
16 飲食	飲食店開業	男性	33	2006. 2~2007. 3	1年1か月	なし	340万円	36
17 出版社(正社員)	出版社(バイト)	女性	32	2009. 4~2009. 11	8か月	ワンワールド	150万円	25
18 派遣コールセンター	貿易事務の派遣社員	女性	31	2008. 5~2009. 3	10か月	ワンワールド	200万円	28
19 美容師	不明	女性	38	2006. 4~2007. 11	1年8か月	なし	不明	38
20 旅行会社	旅行会社(復職)	男性	33	2005. 3~2008. 1	2年8か月	なし	不明	96
21 出版社	編集者	男性	28	2006. 11~2007. 11	1年間	あり	不明	31

(2) インタビュー調査

インタビュー調査も、ブログ調査同様に①性別②年齢③滞在国数④滞在期間⑤費用⑥前職⑦現職⑧世界一周航空券⑨目的・理由⑩出国前の状態⑪帰国後の状態の項目において不明な点を確認し、かつ雇用の流れに重点を置きながら聞き取りを行った。ここでは帰国後就業に際し苦勞を伴った例と苦勞を伴わなかった例に分け、以下に記載する。

(苦勞例 1) O さん

- ①男性
- ②27 歳
- ③44 カ国
- ④2009.4~2010.6 (1 年 2 ヶ月)
- ⑤255 万円
- ⑥リクルート系営業 (正社員)
- ⑦リクルート系営業 (正社員) →NPO (契約社員)
- ⑧なし
- ⑨世界一周が自分の人生で初めて「したい」と思ったことだった。学生の時にウズベキスタンの日本人宿で長期旅行者に出会い刺激をうけた。今のままの人生に飽き、「今できることをしたい」と思った。
- ⑩新卒で働き始め、お金が溜まったら旅しようと考えていた。2 年間働いてお金が溜まったから迷いなく出発。就職の不安は全くなかった。日本だしなんとかなると考えていた。
- ⑪ワールドカップを見るために前日帰国。20~30

社受けて落ち、つらい時期が続いた。幸い前職と同系列の企業に受かり働くが、半年でリストラされる。さすがに焦りを感じハローワークに駆け込み、世界二周目を目指すにあたり正社員であると融通が利きづらいため、お金を稼ぐ手段として NPO の契約社員として現在働いている。二周目は人とより深いコミュニケーションがとれるようにフィリピンに留学して英語を学ぶ予定。

(苦勞例 2) H さん

- ①女性
- ②31 歳
- ③28 カ国
- ④2008.5~2009.3 (10 カ月)
- ⑤200 万円
- ⑥コールセンター (契約社員)
- ⑦コールセンター (アルバイト) →貿易系企業 (派遣社員)
- ⑧ワンワールド使用
- ⑨旅は好きでよく行っていたが、往復の時間もお金ももったいない。どうせ行くなら世界一周していきたい。
- ⑩失うものが何もないと考えていた中、日本に居続けなくてはならない理由がなく、日本でやりたいことも特になかった。世界一周に興味があったが、違う世界の話のように感じていた。だがブログなどで意外と世界一周者がいることを知り、ただの興味が現実には近づいて行った。自分でも行け

ると思い、決意。当時の仕事は向上性がないように感じステップアップできないと思っていたので未練なく辞めて世界一周に出発した。帰国後のことは特に考えておらず職に対する不安はなかった。⑩帰国後世界一周を面接でアピールしたものの、就職活動に手ごたえを得られず、形に残る結果でなければ日本では評価されないと就職活動に手ごたえを得られず切実に感じた。何かしら形にしななければ日本企業では雇ってもらえない確率が高いと感じ貿易事務の資格をとることに決め、勉強期間中生活のためもあり、前職場経験をかわれアルバイトをする。その後貿易事務を扱う企業にて派遣社員として現在働いているが、将来のことを考え、正社員になるべく次の資格を勉強中。帰国してこれだけ日本で働くことが大変なのかと実感して怖くなった。旅行行く前に何も考えてなかった自分にびっくりする。仕事があるってすばらしいと感じる。

(非苦勞例 1) T さん

- ①女性
- ②32 歳
- ③25 カ国
- ④2009.4～2009.11 (8 カ月)
- ⑤150 万円
- ⑥出版社 (正社員)
- ⑦出版社 (アルバイト)
- ⑧ワンワールド使用
- ⑨このまま結婚して同じ所で働き続けて人生が終わるのがイヤだった。結婚を機に長期旅行に行こうと思い、一周にこだわりはなかったがせっかくなので夫と新婚旅行として世界一周へ。
- ⑩7 年間編集の仕事をしていた。結婚を機にライフスタイルもガラッと変わるから、働くかそのまま家庭に入るかも未定で職に対する心配はなかった。仕事を辞めることに対しても会社の正義が合わなかったのが未練はなかった。
- ⑪帰国後、夫の職が決まった後に相談して働くことに。働きたいとは強く思ったが、ライフワークバランスを重視したいと感じていたので正社員になりたいとは感じず、ハローワークで縁あった編集仕事をアルバイトとして始める。転職のブランクはあったが、転職歴がなかったことと7年間編集というある種技術専門職を続けていたため、就業に苦勞しなかったのではないかと感じている。同様に夫も前職 SE という専門職だったため就業にそこまでの苦勞はなかった。ブランク期間何をしていたか突っ込まれるところはあったが、旅行に理解がある企業やベンチャー企業はそこまでマ

イナス要因に考えてないようだった。

(非苦勞例 2) M さん

- ①女性
- ②27 歳
- ③26 カ国
- ④2009.4～2009.11 (5 カ月)
- ⑤200 万円
- ⑥薬剤師 (正社員)
- ⑦薬剤師 (パート) → 薬剤師 (契約)
- ⑧ワンワールド使用
- ⑨やれるうちにやっておこうと思って。
- ⑩薬剤師として働いていたが、仕事場の転勤話がでた際、良い機会だと思った。また独り身になった時に自分は自由だと実感して行くなら今しかないと感じた。薬剤師だから仕事がないことはないと思いついて職を再び得ることに対して不安はなかった。世界一周堂でプランニングしてもらい、言語の不安もあったのでカナダに一月留学してから世界一周に。
- ⑪世界一周中に求人サイトにアクセスし、即、採用が決まったので、職を得るのに苦勞はなかったと思う。ちょうど薬剤師資格が4年制から6年制に変わることによって生じた空白の二年間に帰国したのもあり、薬剤師の資格があれば職は引く手あまたの状態だったと思う。帰国後、パートで半年間働いたが、その後契約社員として別の会社で働き始め現在に至る。二周目を計画中だが世界一周中に出会った旅ロック夫妻の死亡事故が衝撃的でやや迷い中。行くのならば英語を話せるようになってコミュニケーションの幅を広げられるようにしたいと思う。年齢的に結婚について不安もなくはないが全てはタイミングだからなるようになるだろう。

(非苦勞例 3) S さん

- ①男性
- ②38 歳
- ③24 カ国
- ④2002.4～2003.4 (1 年間)
- ⑤320 万円
- ⑥ウェブデザイナー (正社員)
- ⑦ウェブデザイナー (正社員・フリーランス)
- ⑧ワンワールドビジネス使用
- ⑨世界旅行は夢だった。タイミングが行き時だった。人生の夏休みとして、30歳の記念として。
- ⑩一人で行くのは寂しいので、現在の奥さん(当時は結婚していなかった)を説きふせ、二人で行くことに。バックパッカーのように、とにかく節

約、旅行することが目的のケチケチ旅行でもなく、バックツアーのように過度に贅沢で融通のきかない、かいつまんだ旅行でもなく、せっかくだからお金を有効に使った、楽しい旅行をしたいと思いつつバックパック旅行を目指す。帰国後、もっと楽しい人生を送るための長い夏休みを世界一周というやりたいことに当てはめて、やりたいことを先送りせずにやってしまおうと思った。職に対する不安はなく、ウェブデザインという強みはあったと思う。

⑩世界一周をして働くことに対する考え方が変わった。忙しい自慢をしているような仕事に押しつぶされるような生活はしたくないと思い、帰国後、自分に合う会社を探すまでの間フリーランスでウェブデザインをやり、縁あって今の会社に入社。次の人生に活かせる仕事をおもしろく働きたいと思った。言い訳がききにくいウェブデザインで働いてきた自信も実力もある程度あったからなのではないか。現在ウェブデザインの認知を広め地位を日本で向上できるように、フリーランスも続けている。

5. 考察・議論

我々の懸念は、一度、日本社会から外れてしまうと、職が得られなかったり非正規雇用の形態などに落ち着いたりしてしまうのではないかと、というものであった。ところが調査の結果、正規雇用でないにしても、調査対象者全員が望む形での社会復帰ができていたことがわかった。このことから、長期旅行がそこまで再就職を困難に陥れることはないのではないと思われる。とはいえ、サンプルが少ないので、たまたま再就職できた人にインタビュー調査したという懸念は払拭できない。

次に、就業困難な状態に陥ることを回避する方策を探る。そもそも社会復帰を憂慮しなければならぬ前提として、長期旅行に行くためには会社を辞めざるを得ないという現状がある。欧米などでは数か月単位で休暇を取ることができるので会社を辞めずに長期旅行に出ることはできるが、日本で休暇を取ろうとすると長くても数週間レベルである[8]。さらに日本の社会は社会を一度離れた人間に寛容でない傾向が強い。このため、日本人が長期旅行に行くには仕事を辞めなくてはならず、しかし帰国後、社会から受け入れられず、それを見た予備軍が不安を持ちながら長期旅行に行き、また同じことが繰り返されるという悪循環が生まれてしまうのである。

また、調査の結果、日本では採用面接において転職ブランク期間中に何をしていたかを聞かれた

際、どんなに長期旅行で成し得たことをアピールしても、企業からしてみれば「旅をしている」という事実自体がただの遊びであって、結果が客観的に見えないものはただの自己満足として受け取られてしまいがちだとわかった。これを回避するためには成果となるものを長期旅行中ないし前後に築きあげることが効果的であろう。例えば、何らかの資格や語学力向上の立証などが挙げられる。

また、旅行中に成し遂げなくとも、企業から客観的に認められるものとして、旅行前の職業が挙げられる。看護師、美容師、薬剤師、SEなどの技術職専門職であった場合、帰国後の再就職は比較的、容易なようだ。とはいえ、長期旅行後に再就職しやすいと見越して技術専門職を選ぶ人は少ないだろう。そこで可能であれば、一番リスクが少なく社会復帰できる学生のうちに長期旅行をすることが望ましいと思われる。

では現在、技術専門職についてもおらず、学生でもない長期旅行者予備軍はいったいどのような選択をすればよいのか。一つの選択肢は、そのまま同じ企業で中期間、働いてみることである。勤務年数が少ないうちにやめて旅を始めると、企業からはすぐに辞めてしまう「ジョブホッパー」と思われ採用されない可能性が大きい。書類段階で落とされてしまえば、釈明のしようもない。欧米ではエグゼクティブほど職歴が多いと思われ、プラスに働くことがあるが、日本では逆に勤勉で忍耐力があるという観点で、職歴が少ない方が美德とされる風潮がある[9]。7・5・3問題などを抱えている企業からしてみれば、職歴が多い人物を長続きしない者とみなしてしまうのは仕方がないが、それによってますます若者は一つの会社にはばられ、海外に出られなくなってしまう。

調査を通じて分かったことの一つは、世界一周旅行経験者には「日本という恵まれた社会では高望みしなければ職には事欠かない」と考えている人が多いようだ、ということである。また、そう考えていたからこそ、長期旅行に行ってもなんとかなる、と考えていたようである。帰国後も人生を預けるような職場を探しているというよりは、生活のためやその他の目的のために、あくまで一時的に職を得ているように見えた。

6. おわりに

今回の調査では、世界一周旅行からの帰国後、社会復帰ができていないような極端な例を見ることができなかった。しかし、問題点をより明らかにするためには、社会復帰できなかった人にもインタビュー調査を行う必要があるだろう。今後

は引き続きブログ調査及びインタビュー調査を継続する一方で、世界一周旅行の経験者と希望者のイベントにおいて参加者の話を聞き、現在の日本社会のどこに長期旅行者を拒む要因があるかをさらに浮き彫りにしていきたい。

謝辞

本研究を遂行するにあたり、インタビュー調査に応じてくれた皆様には大変お世話になりました。ここに謝意を表します。また、ブログを書かれた世界一周旅行経験者の皆様にもこの場を借りて御礼申し上げます。

参考文献

- [1]厚生労働省, 文部科学省:平成 22 年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査
- [2]国土交通省:平成 21 年度観光白書
- [3]新谷康浩:二極化する非正規就業に関する研究. 「就業形態の多様化に関する総合実態調査」の再分析を手がかりにして, 横浜国立大学教育人間科学部紀要 I, 教育科学 Vol. 10, pp. 79-90 (2008)
- [4]石井徹:ソフト化・サービス化時代の雇用問題、研究紀要 Vol. 16, pp. 1-22 (2010)
- [5]乾彰夫:不安定化する若者をめぐる状況の性格と日本の特徴:失業・非正規雇用と労働市場規制, 教育科学研究 Vol. 23, pp. 31-41 (2008)
- [6]ピースポート HP, <http://www.pbcrui.se> (2011 年 12 月 1 日閲覧)
- [7]世界一周堂 HP, <http://www.sekai1.co.jp> (2011 年 12 月 1 日閲覧)
- [8] エクスぺディア・ジャパン:有給休暇調査 2010, <http://www.expedia.co.jp/corporate/holiday-deprivation.aspx> (2011 年 12 月 1 日閲覧)
- [9] 内閣府経済社会総合研究所:ワーク・ライフ・バランス社会の実現と生産性に関する研究